

北海道研会報

北海道道德教育研究会

第 172 号

発行所：北海道道德教育研究会

事務局：〒006-0011

札幌市西区八軒 3 条西 5 丁目 1 番 1 号

札幌市立八軒西小学校

TEL 011-643-4352 FAX 011-643-0849

発行人：荒川 芳 央

編集人：田 村 明 人

授業検討会、全道学習会がありました。

7月27日(木)に函館市立鍛神小学校にて、全道大会に向けた授業検討会が行われました。まず、始めに函館支部の研究副主題について研究部長の万年橋小学校の藤原友和先生より説明がありました。研究副主題は、「well-beingの実現を目指した道德教育の実践」であり、その設定の理由をこれまでの函館地区の取り組み、全国の道德教育推進状況、中教審答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」、第4期教育振興基本計画などを基に説明していました。自分の能力や価値を高めることで幸福感を得る獲得的ウェルビーイングや人との繋がりや思いやり、利他性、社会貢献意識などを重視して幸福感を得る協調型ウェルビーイングの説明もあり、今回の全国大会の授業では、どちらかを育むことができる教材が選ばれています。

副主題の説明の後には、全国大会の小学校の授業者から指導案、児童の実態、今困っていることをお話いただき、ブロックに分かれて話し合いを行いました。どの指導案や資料も時間がかけられていて授業者の思いが込められていたので、どのブロックも参加された先生が率直に意見を話し、熱い話し合いになりました。その後、中学校の授業づくりについて、研究部長の亀田中学校の川合園子先生より説明がありました。中学校はローテーション道德を活用し、授業を公開することやICT活用を意識したり、弘前大学附属中学校の佐々木先生からもアドバイスをいただいたりして授業づくりを行っていることなどの説明がありました。

最後に堀田調査官より御講評をいただきました。小学校、中学校の研究の進め方や一つ一つの授業についてもたくさんのご示唆をいただきました。また、授業に向けての過程や当日子どもと一緒に楽しむことの大切さを教えていただき、授業者や授業者を支える周りの運営側もとても心が軽くなり、全国大会への思いを改めて強くすることができました。

1日目の様子



7月28日(金)には、全道学習会が行われました。北海道研会長の札幌市立宮の森中学校荒川校長の挨拶及び、全国大会北海道函館大会の運営実行委員長である函館市立東山小学校永井校長より挨拶がありました。その後、札幌市立伏見小学校の北山北海道研研究部長より研究主題「主体的に学び合う児童・生徒の育成」について説明があり、令和6年度からの新研究主題「自己理解を深め、よりよい生き方を自ら考える続ける児童・生徒の育成」、課題別分科会の新テーマについても説明がありました。

新研究主題のキーワードは「自己理解」と「自ら考え続ける」で、「自己理解」とは、自分との関わりで道德的価値の理解を深めることであり、「自ら考え続ける」とは自らを振り返って成長を実感し自己の未来について考えることであると説明がありました。その後、各支部からの活動報告の交流があり、第1部が終了しました。

2日目の様子



講演会

「よりよく生きるための基盤となる 道徳性を養う道徳教育の推進・充実」

講師

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

堀田 竜次 氏



全道学習会の第2部は、堀田竜次先生から道徳教育について具体例を交えてご講演いただきました。まず、道徳教育の全体計画や別葉は形骸化しないように見える場所に掲示し、追加修正をその都度していくことで実質化していくことが大切であること、板書を掲示することで要として授業が生き、子どもが見返して振り返ることができることなど、掲示し見返すことの大切さについて教えていただきました。

次に、授業づくりのポイントを「およげないりすさん」を通して、次のように教えていただきました。

- 1 「ねらいを明確にすること」年間指導計画や主題、学級の実態をもとに考えていくこと。
- 2 「教材を読むこと」教材で学ぶことができる道徳的価値とその論点の展開の仕方を考えること。
副詞（ゆっくり、急に、とんでもない）をいかに読むか考えることも効果的。
- 3 「中心になる場面を考えること」一番深く考えさせたいところや、登場人物の意識や行為が変化したところを中心として考えること。
- 4 「中心的な発問を考えること」主題や内容項目、ねらいをもとに発問を考える。
- 5 「前後の発問を考えること」多くなりすぎないように気をつけながら中心的な発問を生かすための発問を考えていくとよい。

道徳科における問題解決的な学習についても「二通の手紙」を通して教えていただきました。道徳科における問題とは、道徳的価値が実現されていないことに起因する問題、道徳的諸価値についての理解が不十分または誤解していることから生じる問題、道徳的諸価値は理解しているがそれを実現しようとする自分とできない自分との葛藤から生じる問題があります。それらに対して、児童・生徒一人一人が自分なりの答えを導き出すことが大切です。「二通の手紙」では、きまりに対する生徒の実態からスタートする展開を教えてくださいました。中心発問では、自分の体験やそれに伴う考え方や感じ方を基に自分なりの考え方もち、友達との話し合いを通して道徳的価値のよさや難しさを確かめられるように工夫をします。終末では、私にとってきまりとはということを書かせるようにします。本時だけで納得いかない子もいるはずなので、そこも頭に入れておくことが大切であり、今後の生活などで理解していくこともあるということをお話しいくことも大切であるということです。

たくさんのご示唆をいただいた後、会場に集まった皆様や ZOOM で参加している皆様からの質問にたくさん答えていただき、たくさんのお話を教えていただきました。明日からの道徳の授業に生かせる、大変実りの多い講演会となりました。ありがとうございました。